

(別紙)

障害福祉分野のロボット等導入支援事業(令和5年度補正予算分)
(施設等に対する導入支援分) 事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 福井県

【基本情報】

フリガナ	シャカイフクシホウジン クスリユウコウセイジギョウタン
法人名	社会福祉法人 九頭竜厚生事業団
フリガナ	クスリユウワークショツプ シズカノサト
事業所名	九頭竜ワークショツプ しずかの郷
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
障害者支援施設	
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
24.4 人	

(1)主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別: 移乗介護 排泄支援 入浴支援
 移動支援 見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数) いうら 移動式リフト 1台

(2)ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (C×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)				
直接介護	17人	1 移動・移乗・体位変換	186件	2,232件	15分	9,486人時間	33時間
		2 排泄介助・支援		0件		0人時間	#DIV/0!
		3 生活自立支援(※1)		0件		0人時間	#DIV/0!
		4 行動上の問題への対応(※2)		0件		0人時間	#DIV/0!
		5 その他の直接介護		0件		0人時間	#DIV/0!
間接業務		6 巡回・移動		0件		0人時間	#DIV/0!
		7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)		0件		0人時間	#DIV/0!
		8 見守り機器の使用・確認		0件		0人時間	#DIV/0!
		9 その他の間接業務		0件		0人時間	#DIV/0!
		186件	2,232件	15分	9,486人時間	#DIV/0!	

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援

※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

1日 6件 × 31日 = 186 件

<※2>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

1件 15分

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (C×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)				
直接介護	9人	1 移動・移乗・体位変換	186件	2,232件	18分	6,026人時間	74時間
		2 排泄介助・支援		0件		0人時間	#DIV/0!
		3 生活自立支援(※1)		0件		0人時間	#DIV/0!
		4 行動上の問題への対応(※2)		0件		0人時間	#DIV/0!
		5 その他の直接介護		0件		0人時間	#DIV/0!
間接業務		6 巡回・移動		0件		0人時間	#DIV/0!
		7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)		0件		0人時間	#DIV/0!
		8 見守り機器の使用・確認		0件		0人時間	#DIV/0!
		9 その他の間接業務		0件		0人時間	#DIV/0!
		186件	2,232件	18分	6,026人時間	#DIV/0!	

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※3>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

1日 6件 × 31日 = 186件

<※4>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

1件 18分

年間業務時間数想定削減率(%)

36.5%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

身体が大きな利用者の移乗について、こわばりや緊張、拘縮があり、一人では安全に行えず、二人介助となっていた。ロボット機器導入によって、一人でも安全に移乗を行なえるようになったと共に、時間の調整をせずに介助が行えるようになったため

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

利用者には、とても安全に移乗介助が提供出来るようになった。又、二人行っていた介助が一人で行えるようになった事で、業務効率が向上(時間削減等)、職員の身体的負担軽減や腰痛予防に繋がった

(5)今後の課題

ロボット機器が大きい為、十分な利用スペースが必要になり、使用場所に応じて移乗介助の方法を変更しなければならない

(6)気づき等について

ゆっくりと移乗が行えるようになり、利用者も力を抜いて楽に移乗が出来ている。腕や腰を持つての二人介助での移乗に比べ、機械での移乗は楽であるとの声があった。

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減	無
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円/月)	
職員の賃上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当(※1)	
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

抱える移乗から、ロボット機器を使用した移乗となった事で、腰痛の訴えが減っている。実際、とても助かっているとの声がある。

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。

利用者にとって、安全な移乗を提供出来ている。